

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070501180		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷		
所在地	長野県飯田市北方1558		
自己評価作成日	平成22年1月16日	評価結果市町村受理日	平成22年4月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070501180&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成22年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度から、認知症介護研究・東京センターの講師の研修を受け、センター方式に取り組んでいます。皆様のご協力もいただき、入居者様の生活習慣や、日々の会話の中からも生活歴を探り、地域の中でその人らしい暮らしを続けていただけるように、チームケアに取り組んでいます。
働くスタッフのストレス軽減に努めています。希望休暇や急な休暇にも対応できる体制の強化。定期的な交流会(食事会)。スタッフ同士の話し合い。管理者、場合によっては、部長との面談の機会も作り、風通しの良い職場作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

飯田市郊外の昔ながらの住居や田畑が混在し、新興住宅地の奥まった所にある新築二階建ての建物がある。大手法人が経営する介護事業所の内の1つであり、法人全体で研修が充実しており、センター方式にも取り組んでる。各階に1つつ2ユニットあり、利用者が過ごすことが多い居間食堂は、車椅子の利用者も自由に行き来し、上下のユニットの利用者が合同で集っても、ゆったりと過ごせる広さで施設は恵まれている。洗濯物の手入れをする利用者や、来訪者にお茶をお出しする利用者をそっと見守り、さりげなく手助けするスタッフの姿から、「なじみの生活を続けていけるように支え合う」という理念が実践されていることが窺われた。スタッフのゆったりとした余裕のある明るい表情や利用者とのやりとりから、スタッフ同士や管理者やその上司の方々とも、思いを一つにして、利用者のケアに取り組む姿勢が感じられた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(こもれび)

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(とまりぎ)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今まで馴染んだ生活を尊重しながら、地域の中での暮らしを支援するための理念を掲げ、センター方式を導入して実践している。	昨年理念を見直し、「地域の中で」を加え、毎年作成する事業計画、基本方針のなかで理念を具体化して、日々のケアに活かすように努めている。玄関ホールには理念が掲示されていた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のボランティア(歌、花を植えて下さる)の受け入れ、依頼をしながら交流の場を持てるように努めている。	近隣の中学生の職場体験の受け入れや、地域の民生委員が花を植え、水やりなどで定期的に訪問されている。自治会に加入されているが、開設されてから日が浅く、地域の行事のような情報の入手に苦労されている。	地域での自治会の会議や役員との関わりを工夫され、利用者の参加可能な行事をまず把握されることを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員の方(地域の方)を中心に、認知症ケアの取り組み(センター方式の説明をさせて頂いたり、行事や防災非難訓練時に近隣の方にも参加いただき、理解を図っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月の会議を行い、その都度、入居者様、職員の状況、近況の報告、防災訓練を見学いただき、講評やご意見を頂き、日々の運営にフィードバックしている。	会議を定期的に行い、地域包括支援センター、地区民生委員、自治会の役員などが参加し、議事録も毎回作成され、そこでの意見、提案等を運営に活かす仕組みができています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は、できる限り連絡を取ってご指導いただくように努めている。	市の事業所連絡会議に参加し、市の担当者等との連携に努めている。働きかけをしているが、市町村の担当者がホームに訪問して、ケアサービスの取り組みなどの情報を交換する機会がまだ得られていない。	市の担当者には、実地にホームの現状を視察して、情報を共有していただく機会を作りたいことを望みます。

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なカンファレンス、研修を行なっている。また、職員同士が、常に確認しあって努めている。	玄関は昼間は施錠されておらず、入居者は自由に庭などに入出入りされている。月2回のスタッフ会議の機会を利用して、ヒヤリ・ハットの事例と見守りについて常に確認し、日々のケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なカンファレンス、研修を行なっている。また、職員同士が、常に確認しあって努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば、極力参加できるように調節している。また、日常的にも学ぶ機会をつくっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一方的な説明にならないように、十分な時間をとって対応させて頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置。家族交流会の機会を設けている。また、退所時にアンケートをお渡しして、率直なご意見をいただける工夫をしている。スタッフ会議時の参考資料としている。	意見箱を通しての投書はない。家族は訪問時に意見を言ったり、電話があり、その意見をスタッフ内でも、会議やノートを通して共有している。家族交流会は昨年2回実施し、一緒におはぎを作って交流した。家族等からの意見に耳を傾け、丁寧な説明、対応を心がけている姿勢やその記録がみられた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談、日常的にも必要に応じて行なっている。また、スタッフ会議時は、職員の意見優先の場とし、管理部門に直接通じる機会としている。	月2回のスタッフ会議には、ほぼ全員が参加し、管理部門の部長または支店長が必ず参加し、管理者からは、スタッフも自由に意見を述べていると伺った。管理者とスタッフの個人面談は年に2回、または必要に応じて実施しており、管理者は運営に職員の意見を反映するよう努めている。	

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1.待遇改善(処遇改善交付金の支給等) 2.福利厚生充実 3.研修の充実 等を通じ、就業環境の整備を図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	階層別の社内研修を実施。施設長研修、リーダー研修、スタッフ研修、新人研修。また、センター方式活用のための研修。医療知識習得の研修を行った。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種団体(GH連絡会、飯伊圏域介護保険事業者連絡協議会など)へ加入。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人と家族の要望を明記いただいたり、サービス担当者会議に参加いただき、できる限り意向に沿えるように努めている。また、入居時に、センター方式シートを記入いただき、生活歴を基にその方を知る努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、ご本人と家族の要望を明記いただいたり、サービス担当者会議に参加いただいている。また、随時、お話、要望を伺うように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議に参加いただいたり、ケアプランの作成時にご意見を頂いたり、できる限り意向に沿えるように努めている。		

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を導入し、ご家族様からの情報をヒントに、それぞれの得意分野を活かせるように、また人生の先輩として料理の手順や、野菜のつくり方を訓えていただいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	センター方式を導入し、生活歴、長年の習慣、好み等をご家族様からの情報をヒントに共有させていただき、ケアに活かしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴等を参考に、あるいはご本人さんのご希望を伺いながら、喫茶店、本屋さん、自宅等に行かれる支援に努めている。また、お花見(ドライブ)等は、出きるだけ馴染みのある場所を選んでいく。	花見は利用者の近所の馴染みの場所が入るように設定している。知人や近所の人を訪れてくれる利用者もある。家族の協力も得ながら、個人的に馴染みの場所に出かける利用者の支援もしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペース(リビング)を活かして、上手く関われる、テーブル配置を検討したり、会話ができる雰囲気、環境づくりに努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅のケアマネ、ソーシャルワーカーへの情報提供等、必要に応じての支援は行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使って、今までの生活や、馴染んできたことを尊重しながら、カンファレンスを繰り返しながら、取り組んでいる。	聞き取りやシートの記入などで家族の協力を得ながら、センター方式を活用して思いや意向を把握するように努めている。職員は、夜勤の時間などを利用して記録を読み込む工夫をしていた。	

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使っている。入居時に、ご家族様に記入していただいたシートを参考に、さらに日々の生活の中でも、把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴を参考に、日々の個別記録で状況の把握をし、さらにスタッフ全員で共有できるように、確実な申し送りを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式で得た情報、ご家族様の意向、ご本人様ご希望を十分考慮したうえで、ケアプランを作成し同じ視点でのケアを目指している。また、日々モニタリングチェック表を使って確認を行なっている。	毎日モニタリングチェック表を確認し、月ごとに短期目標を見直し、状態の変化に合わせた介護計画の見直しを行っている。安定した方には、より長期的な視点での評価が必要と思われる。計画作成担当者を中心にスタッフ会議でも話し合い、チームで計画を作製、共有している。	センター方式を活かし、モニタリング・評価から新たな介護計画の作成へと一連の流れとなるように、日付などの記載と様式の工夫がより望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式シートを個別記録に取り組みで、日々の申し送り、カンファレンス時の参考資料として、共有、見直しを行なっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現体制で、安全に対応できる範囲で、できる限りその時々々の個別のニーズに対応できるよう、チームケアを目指している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に生活できる職員体制の範囲で、ケアプランにも組み込んで、支援できるように努めている。		

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族様の意向、ご本人様の状況に応じ、安心な生活を続けられるように、かかりつけ医と密に連携をとっている。</p>	<p>かかりつけ医は本人や家族の希望で選んでおり、各ユニットに月1回ずつホームに往診して下さる医師をかかりつけ医とする利用者が3分の2ぐらいである。通院の付き添いは基本的に家族の協力をお願いしている。夜間等も必要に応じて、電話等がかかりつけ医の指示を頂いている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの医療連携により、常に体制を整え、支援を行なっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ソーシャルワーカーと密に連携を取り、情報収集、退院後の指導を頂いたり、積極的な関係づくりに努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事業所として「重度化に関わる指針」は明確にしている。また、ご家族様とも入居時、状況に応じてその都度ケアプランに組み込み、状態に合わせたケアに取り組んでいる。</p>	<p>指針が明確にされ、利用者の状態の変化に応じて主治医と相談しながら、家族と話し合い、同意書の準備もしているが、利用者の状態の変化や家族の希望等で看取りに至った事例はない。スタッフ間でも意見を交換しながら、重度化や終末期のケアに向けて研修や準備を進め、体制を整えている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアルの確立、研修、救命講習を受講している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的(1/月)防災避難訓練、総合訓練を行い、地域の方にも参加いただいている。また、近隣の方の協力体制も整えている。</p>	<p>毎月行うスタッフ会議で通報の現地訓練を順番に実施している。防災訓練の不参加者には、電話での連絡訓練を実施した。2階には、階段の踊り場や居間兼食堂の掃き出し窓の外にベランダがあり、全員避難できる広さとなっているので、訓練に活用している。</p>	

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行ったり、カンファレンスを通して気をつけている。	昨年は研修で職員を二つに分けて全員で言葉かけの研修を実施している。呼称は本人の希望を踏まえて決めるなど個別の対応をとっており、一人ひとりを尊重する姿勢がうかがえた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式のシート記入の際に、お話を伺ったり、カンファレンスに参加いただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式の理念(その人らしい暮らし)に沿って、ケアプランにも反映して取り組んでいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣、ご本人様の好みの取り入れ、生活歴から得た馴染みのおしゃれや身だしなみ等を配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の意思を尊重しながら、日々の食事づくりへの参加への促し、役割づくりに努めている。	キッチンオープンで、料理の様子が居間から見渡せる造りである。台ふき、皮むき、配膳などできる範囲で参加できるように役割をみつけて、スタッフが促したり、手助けしている。柏もち、天ぷらまんじゅうなど季節や伝統の行事を大切に、献立にも配慮している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者の身体機能を考慮した献立(栄養士の指導あり)による食事と、水分摂取チェック表の活用で脱水防止に努めたり、食事量も必要に応じてチェックし、状態に合わせた支援を行なっている。		

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアの促し、見直し、義歯洗浄支援すぐことが上手くできない方は、ガーゼ清拭等を行なって清潔、肺炎予防に努めている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>それぞれのケアプランに、その人の排泄パターン、リズムに合わせた支援計画を作り、全員で取り組んでいる。</p>	<p>バルーンの入っていた方は、抜去して夜だけのオムツ使用と昼は時間を決めて誘導し、排泄の自立に向けた取り組みをするなど、それぞれの利用者に対して介護計画に沿った支援を行っている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>主治医、訪問看護(医療連携)からの指導を頂いたり、食事、水分(牛乳やヨーグルト、ゼリー)を工夫している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>まずは、入居者様の意思を確認させていただく。ただ、一人ひとりにゆっくりとした対応を心がけると、入浴回数には限界が生じている。</p>	<p>一人あたり週に3回を基本とし、誘い方、人を変えるなど工夫しながら、入浴を支援している。入浴しない方に足浴を実施したり、ゆず、菖蒲湯など季節感も大切にしている。重度化し二人体制で介助の入浴をしている方があり、設備面からの改善策を検討中である。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>こちらの都合ではなく、生活歴、習慣を尊重した上で、昼休み、就寝時間は個別に合わせている。また、ゆっくりと休んでいただけるように、静かな落ち着いた環境づくりに努めている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>研修、薬辞典等で学ぶ機会をつくっている。また、各自の服薬説明書をファイルして、常に見られるようにしている。状態の変化に応じて、主治医に相談している。</p>		

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自に合わせた好みへの対応、役割づくりに努めている。日常的に2Fとの交流を図り、気分転換に繋げている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の承諾、ご協力を頂きながら、買い物や馴染みの喫茶店等に出かけられる支援を行なっている。	重度化に伴い個人差があり、個別の対応が多くなり、全員でのドライブは回数が少なくなっている。日常的にスーパーに買い物に出かける方には個別に支援し、庭の野菜の取り入れ、外のゴミ箱までなど、近所への散歩は日常的に行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の承諾、ご協力を頂きながら、ご本人の希望に応じて、所持していただいている。また、買い物の際にも、ご本人の意思による選択や支払いを支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて対応している。また、定期的にお手紙を書かれる方には、常に便箋、封筒を用意する等の配慮もしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、清潔と安全に配慮している。また、季節に因んだ製作物や、花を飾ったりしている。食事やお茶の時間には、ゆったりした音楽を流して、穏やかな環境づくりに努めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全な生活のための見守りはさせて頂きながら、一人ひとりの生活ペースで過ごしていただけるように心かけている。		

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出きるだけ馴染みのものを持って来ていただくようお話をしている。また、安全に気持ちよく過ごしていただけるように、定期的なお掃除にも配慮している。	共有の空間である居間兼食堂は広く、車椅子も自由に移動しており、陽当たりもよく明るく、ソファも置かれている。契約している作業療法士が毎月訪問しており、季節の飾り(豆まきの鬼の面、折り紙など)と一緒に作製して飾っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓、清潔、場所が明確に理解できるような配慮に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今まで馴染んだ生活を尊重しながら、地域の中での暮らしを支援するための理念を掲げ、センター方式を導入して実践している。	昨年理念を見直し、「地域の中で」を加え、毎年作成する事業計画、基本方針のなかで理念を具体化して、日々のケアに活かすように努めている。玄関ホールには理念が掲示されていた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のボランティア(歌、花を植えて下さる)の受け入れ、依頼をしながら交流の場を持てるように努めている。	近隣の中学生の職場体験の受け入れや、地域の民生委員が花を植え、水やりなどで定期的に訪問されている。自治会に加入されているが、開設されてから日が浅く、地域の行事のような情報の入手に苦労されている。	地域での自治会の会議や役員との関わりを工夫され、利用者の参加可能な行事をまず把握されることを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員の方(地域の方)を中心に、認知症ケアの取り組み(センター方式の説明をさせて頂いたり、行事や防災非難訓練時に近隣の方にも参加いただき、理解を図っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月の会議を行い、その都度、入居者様、職員の状況、近況の報告、防災訓練を見学いただき、講評やご意見を頂き、日々の運営にフィードバックしている。	会議を定期的に行い、地域包括支援センター、地区民生委員、自治会の役員などが参加し、議事録も毎回作成され、そこでの意見、提案等を運営に活かす仕組みができています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は、できる限り連絡を取ってご指導いただくように努めている。	市の事業所連絡会議に参加し、市の担当者等との連携に努めている。働きかけをしているが、市町村の担当者がホームに訪問して、ケアサービスの取り組みなどの情報を交換する機会がまだ得られていない。	市の担当者には、実際にホームの現状を視察して、情報を共有していただく機会を作りたいと望みます。

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なカンファレンス、研修を行なっている。また、職員同士が、常に確認しあって努めている。	玄関は昼間は施錠されておらず、入居者は自由に庭などに入出入りされている。月2回のスタッフ会議の機会を利用して、ヒヤリ・ハットの事例と見守りについて常に確認し、日々のケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なカンファレンス、研修を行なっている。また、職員同士が、常に確認しあって努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば、極力参加できるように調節している。また、日常的にも学ぶ機会をつくっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一方的な説明にならないように、十分な時間をとって対応させて頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置。家族交流会の機会を設けている。また、退所時にアンケートをお渡しして、率直なご意見をいただける工夫をしている。スタッフ会議時の参考資料としている。	意見箱を通しての投書はない。家族は訪問時に意見を言ったり、電話があり、その意見をスタッフ内でも、会議やノートを通して共有している。家族交流会は昨年2回実施し、一緒におはぎを作って交流した。家族等からの意見に耳を傾け、丁寧な説明、対応を心がけている姿勢やその記録がみられた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談、日常的にも必要に応じて行なっている。また、スタッフ会議時は、職員の意見優先の場とし、管理部門に直接通じる機会としている。	月2回のスタッフ会議には、ほぼ全員が参加し、管理部門の部長または支店長が必ず参加し、管理者からは、スタッフも自由に意見を述べていると伺った。管理者とスタッフの個人面談は年に2回、または必要に応じて実施しており、管理者は運営に職員の意見を反映するよう努めている。	

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>1.待遇改善(処遇改善交付金の支給等) 2.福利厚生充実 3.研修の充実 等を通じ、就業環境の整備を図っている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>階層別の社内研修を実施。施設長研修、リーダー研修、スタッフ研修、新人研修。また、センター方式活用のための研修。医療知識習得の研修を行った。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各種団体(GH連絡会、飯伊圏域介護保険事業者連絡協議会など)へ加入。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時には、ご本人と家族の要望を明記いただいたり、サービス担当者会議に参加いただき、できる限り意向に沿えるように努めている。また、入居時に、センター方式シートを記入いただき、生活歴を基にその方を知る努力をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時には、ご本人と家族の要望を明記いただいたり、サービス担当者会議に参加いただいている。また、随時、お話、要望を伺うように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス担当者会議に参加いただいたり、ケアプランの作成時にご意見を頂いたり、できる限り意向に沿えるように努めている。</p>		

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を導入し、ご家族様からの情報をヒントに、それぞれの得意分野を活かせるように、また人生の先輩として料理の手順や、野菜のつくり方を訓えていただいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	センター方式を導入し、生活歴、長年の習慣、好み等をご家族様からの情報をヒントに共有させていただき、ケアに活かしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴等を参考に、あるいはご本人さんのご希望を伺いながら、喫茶店、本屋さん、自宅等に行かれる支援に努めている。また、お花見(ドライブ)等は、出きるだけ馴染みのある場所を選んでいく。	花見は利用者の近所の馴染みの場所が入るように設定している。知人や近所の人を訪れてくれる利用者もある。家族の協力も得ながら、個人的に馴染みの場所に出かける利用者の支援もしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペース(リビング)を活かして、上手く関われる、テーブル配置を検討したり、会話ができる雰囲気、環境づくりに努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅のケアマネ、ソーシャルワーカーへの情報提供等、必要に応じての支援は行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使って、今までの生活や、馴染んできたことを尊重しながら、カンファレンスを繰り返しながら、取り組んでいる。	聞き取りやシートの記入などで家族の協力を得ながら、センター方式を活用して思いや意向を把握するように努めている。職員は、夜勤の時間などを利用して記録を読み込む工夫をしていた。	

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使っている。入居時に、ご家族様に記入していただいたシートを参考に、さらに日々の生活の中でも、把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴を参考に、日々の個別記録で状況の把握をし、さらにスタッフ全員で共有できるように、確実な申し送りを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式で得た情報、ご家族様の意向、ご本人様ご希望を十分考慮したうえで、ケアプランを作成し同じ視点でのケアを目指している。また、日々モニタリングチェック表を使って確認を行なっている。	毎日モニタリングチェック表を確認し、月ごとに短期目標を見直し、状態の変化に合わせた介護計画の見直しを行っている。安定した方には、より長期的な視点での評価が必要と思われる。計画作成担当者を中心にスタッフ会議でも話し合い、チームで計画を作製、共有している。	センター方式を活かし、モニタリング・評価から新たな介護計画の作成へと一連の流れとなるように、日付などの記載と様式の工夫がより望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式シートを個別記録に取り組みで、カ日々の申し送り、カンファレンス時の参考資料として、共有、見直しを行なっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現体制で、安全に対応できる範囲で、できる限りその時々個別のニーズに対応できるように、チームケアを目指している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に生活できる職員体制の範囲で、ケアプランにも組み込んで、支援できるように努めている。		

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の意向、ご本人様の状況に応じて、安心な生活を続けられるように、かかりつけ医と密に連携をとっている。	かかりつけ医は本人や家族の希望で選んでおり、各ユニットに月1回ずつホームに往診して下さる医師をかかりつけ医とする利用者が3分の2ぐらいである。通院の付き添いは基本的に家族の協力をお願いしている。夜間等も必要に応じて、電話等がかかりつけ医の指示を頂いている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携により、常に体制を整え、支援を行なっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーと密に連携を取り、情報収集、退院後の指導を頂いたり、積極的な関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として「重度化に関わる指針」は明確にしている。また、ご家族様とも入居時、状況に応じてその都度ケアプランに組み込み、状態に合わせたケアに取り組んでいる。	指針が明確にされ、利用者の状態の変化に応じて主治医と相談しながら、家族と話し合い、同意書の準備もしているが、利用者の状態の変化や家族の希望等で看取りに至った事例はない。スタッフ間でも意見を交換しながら、重度化や終末期のケアに向けて研修や準備を進め、体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルの確立、研修、救命講習を受講している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(1/月)防災避難訓練、総合訓練を行い、地域の方にも参加いただいている。また、近隣の方の協力体制も整えている。	毎月行うスタッフ会議で通報の現地訓練を順番に実施している。防災訓練の不参加者には、電話での連絡訓練を実施した。2階には、階段の踊り場や居間兼食堂の掃き出し窓の外にベランダがあり、全員避難できる広さとなっているので、訓練に活用している。	

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や、日常的にカンファレンスを行なっている。特に、言葉かけには注意している。	昨年は研修で職員を二つに分けて全員で言葉かけの研修を実施している。呼称は本人の希望を踏まえて決めるなど個別の対応をとっており、一人ひとりを尊重する姿勢がうかがえた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式のシート記入の際に、お話を伺ったり、カンファレンスに参加いただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式の理念(その人らしい暮らし)に沿って、ケアプランにも反映して取り組んでいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣、ご本人様の好みの取り入れ、生活歴から得た馴染みのおしゃれや身だしなみ等を配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の意思を尊重しながら、日々の食事づくりを一緒にしていただいたり、楽しく話をしながら行なえるようにに努めている。	キッチンオープンで、料理の様子が居間から見渡せる造りである。台ふき、皮むき、配膳などできる範囲で参加できるように役割をみつけて、スタッフが促したり、手助けしている。柏もち、天ぷらまんじゅうなど季節や伝統の行事を大切に、献立にも配慮している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者の身体機能を考慮した献立(栄養士の指導あり)による食事と、水分摂取チェック表の活用で脱水防止に努めたり、食事量も必要に応じてチェックし、状態に合わせた支援を行なっている。		

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの促し、見直し、義歯洗浄支援すぐことが上手くできない方は、ガーゼ清拭等を行なって清潔、肺炎予防に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれのケアプランに、その人の排泄パターン、リズムに合わせた支援計画を作り、全員で取り組んでいる。	バルーンの入っていた方は、抜去して夜だけのオムツ使用と昼は時間を決めて誘導し、排泄の自立に向けた取り組みをするなど、それぞれの利用者に対して介護計画に沿った支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医、訪問看護(医療連携)からの指導を頂いたり、食事、水分(牛乳やヨーグルト、ゼリー)を工夫している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	まずは、入居者様の意思を確認させていただく。ただ、一人ひとりにゆっくりとした対応を心がけると、入浴回数には限界が生じている。	一人あたり週に3回を基本とし、誘い方、人を変えるなど工夫しながら、入浴を支援している。入浴しない方に足浴を実施したり、ゆず、菖蒲湯など季節感も大切にしている。重度化し二人体制で介助の入浴をしている方があり、設備面からの改善策を検討中である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こちらの都合ではなく、生活歴、習慣を尊重した上で、昼休み、就寝時間は個別に合わせている。また、ゆっくりと休んでいただけるように、静かな落ち着いた環境づくりに努めている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	研修、薬辞典等で学ぶ機会をつくっている。また、各自の服薬説明書をファイルして、常に見られるようにしている。状態の変化に応じて、主治医に相談している。		

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自に合わせた好みへの対応、役割づくりに努めている。日常的に2Fとの交流を図り、気分転換に繋げている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の承諾、ご協力を頂きながら、買い物や馴染みの喫茶店等に出かけられる支援を行なっている。	重度化に伴い個人差があり、個別の対応が多くなり、全員でのドライブは回数が少なくなっている。日常的にスーパーに買い物に出かける方には個別に支援し、庭の野菜の取り入れ、外のゴミ箱までなど、近所への散歩は日常的に行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご本人の希望が少ないが、可能な方には、買い物に同行いただくなど、場面づくりには努めている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて対応している。また、定期的にお手紙を書かれる方には、常に便箋、封筒を用意する等の配慮もしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、清潔と安全に配慮している。また、季節に因んだ製作物や、花を飾ったりしている。食事やお茶の時間には、ゆったりした音楽を流して、穏やかな環境づくりに努めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全な生活のための見守りはさせて頂きながら、一人ひとりの生活ペースで過ごしていただけるように心かけている。		

外部評価結果(飯田ケアハートガーデン グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出きるだけ馴染みのものを持って来ていただくようお願いをしている。また、安全に気持ちよく過ごしていただけるように、定期的なお掃除にも配慮している。	共有の空間である居間兼食堂は広く、車椅子も自由に移動しており、陽当たりもよく明るく、ソファも置かれている。契約している作業療法士が毎月訪問しており、季節の飾り(豆まきの鬼の面、折り紙など)と一緒に作製して飾っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓、清潔、場所が明確に理解できるような配慮に努めている。		